

<9月第1例会報告>

ハワイの文化に触れ合う夕べ

副会長 佐伯一丸

- ・日時：2015年9月17日（木）19～21時
- ・場所：西神戸YMCA多目的ホール
- ・講師：フラの歴史解説 石田由美子氏（宝塚ク）
- ・フラ演舞 関西学院大学・神戸三田キャンパス・フラサークル「Mahalo」

先ず、石田講師からハワイのフラ（ダンス）に関する歴史解説からスタートした。

「フラ」はハワイ語で「ダンスの意味」であるので、「フラダンス」といういい方は間違いである。

古来ハワイにおいてフラは、火（火山）の神ペレに捧げる踊りとして始まったとされている。火の神ペレの妹であるヒアカが、ペレの怒りを鎮めるために始めた踊りがフラの始まりであるとされている。

ハワイでは元々文字がなかったため、フラはハワイの文化や生活様式などの歴史を後世に伝えるための行為でもあり、儀式でもあった。

ところが19世紀初頭にハワイに来た米国のプロテスタント宣教師によってフラが禁止され、多くの歴史が失われてしまった。

その後カメハメハ大王3世が1830年代に宗教の自由を主張し、フラを復活させようと努力したが、うまくいかなかった。しかし、その後ハイネックと長袖のドレスを着る条件で、やっと許可されたようだ。

そしてハワイ王朝最後の王とされるデイビッド・カラカウア大王は、フラに西洋の文化を取り入れつつ、華麗なコスチューム（ドレス）を着て、歌を歌い踊るといふ、より舞踏的なパフォーマンスという方向に導いた。

一説によると、フェスティバルで踊られるフラは、笑顔絶やさずに踊り歌いながら、宣教師への不満や文句を分からないようにぶちまけていたフラもあったようである。

余談であるが、ハワイ王朝最後の王様カラカウア大王が来日したことがある。ハワイを守るため、日本と同盟を結び、そして日本の天皇と自分の娘とを結婚させようと考えていたようである。しかしどちらも成功はしなかった。

そして次は石田講師のフラ、そしてMahaloのフラ。華やかな衣装に包まれた彼女たちの演舞は華麗で素晴らしく、盛んな拍手が送られた。

参加者：ゲスト45、ビジター8、関学生9、我がクラブ・メン・メネット14、合計76名

予想以上にゲストの参加が多かった。学園都市の中



に、フラの講習をしている施設が幾つかあり、事前にポスターを張らせてもらったことがよかったようである。



<10月事務例会議事録>

日時 : 2015年10月1日(木) 19:00~21:00

場所 : 西神戸YMCA

出席者: 阿部、佐伯、杉本、舘、達、丹家、中村、西田、野呂、(メネット) 阿部、

1. 報告事項

(1) 9月第1例会(9/17)「ハワイの文化に触れ合うタベ」開催

石田由美子講師(宝塚ク)によるフラに関する歴史解説と関西学院大・神戸三田キャンパス・フラサークル「Mahalo」(学生9名)による演舞が行われた。

参加者は、ワイズが我がクラブと他クラブ含めて22名、フラ学生9名、一般見学者を含めて70余名。華麗な演技に盛んな拍手が送られた。

(2) チャリティーラン第1回協賛委員会開催

日時 9/24(木曜)19:00~20:30

於 神戸YMCAカレッジ 大津メン出席

(3) 2016/17年 BF代表申請開始

申請期限: 11/1(日曜)

西日本区国際・交流事業通信 第2号に詳細記載

(4) チャリティーラン(11/3) 必要備品借用申請

申請期限 10/6(火曜)

2. 協議事項

(1) ワイワイまつり準備打ち合わせ

1) 餅つき用備品・食材など

① YMCA準備品

プロパン3、コンロ3連2個・2連1個、かまど1、大釜1、石臼1、杵2~3本、

水道ホース1、長机5、椅子7、

② 入江幼稚園借用分

蒸籠3、敷板、かまど、大釜、スノコ3、餅を丸める時に敷く布1、(担当佐伯、中村メン)

③ ワイズで用意する食材と備品

もち米の手配: ワイワイまつり 40kg、チャリラン 40kg、(担当合田メン、メネット)
あんこ 12kg、きな粉 4kg、砂糖 4kg、塩少々、フードパック 400個、割り箸 600膳、レジ袋 150、(食材・資材は阪本メン担当)。
蒸し布巾 6枚、しゃもじ、トンゴ、ひしゃく、スノコ3、蒸籠3、敷板、ラップ、ポリバケツ 大4

2)のみの市: こども園のスタッフが担当する。従って、今年はワイズ関係なし。

3)ワイワイまつり準備日程・集合時間

・10/22(木) 全般打ち合わせ 19時~

・前日 10/23(金) 午前 10時~

もち米の洗米・浸漬、蒸籠などの洗浄、備品の確認

・当日 10/24(土) 午前 8:30 集合~15時後始末
ワイワイまつり 10:30~14:30

(2) チャリティーラン準備の事務例会(10/29・木曜)開催の要・否

3. その他報告事項等各役員、各事業担当、YMCA

(1) ジャガイモの荷受け・搬入・小分け

10月23日(金) 12~13時頃

金曜日のためユースリーダー不在で手が足りません。手の空いている方はご参加をお願いします。会長あて申告をお願いします。

参加予定者: 佐伯、舘、中村、野呂

<会員投稿>

雑想

田辺 征一 メン

昨年度に引き続き、今年度は副園長として新制度移行に伴う業務と後任の養成に従事しています。学園都市ワイズの皆様にはご無沙汰ばかりで申し訳なく思っています。

日頃園児たちと接していて思うことは、こどもたちの疲れを知らないパワーと好奇心のすごさ、そして澄んだ瞳に代表される素直さです。その行動は休むことを知らないし、興味・関心も止むことがありません。



創世記2章に「主なる神は土のチリで人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」とあります。ここで言われている「人」とは、幼児のことではなかろうか？なぜなら生きる者とはパワー・好奇心・素直さを兼ね備えた者のことではないかと思うからです。何の偏見も疑うことも知らず、生命力にあふれ、神とともに生きている。しかし、人は成長して理性という自我に目覚め、エデンの園を出て行かねばならない。アダム（人の意）が理性とい

う果実により罪を知りエデンの園を追われ、額に汗して労苦し、やがて歳を重ねてついには土に帰る。この創造神話は人間の一生を物語っている。一般にアダムは成人男子として描かれてきたが、生きた者となった人間は実は幼児であった、というのは意外に的を射ているかもしれない。

「土のチリで人を形づくり、」は非常に意味深な表現である。我々の住むこの地球とそこに住む生きとし生けるものすべては宇宙のちりから造られているからである。このちりはどこから来たのか。それは、星の最後に見られる大爆発で宇宙にまき散らされた膨大な物質（チリ）である。物質は再び集まり惑星となる。宇宙誕生から138億年、この間、実に多くの星の死と再生が繰り返されてきた。人間の血液は大爆発で生成される元素のほとんどを含んでいるという。まったくの偶然の産物かもしれない私たち1人1人が生きているのはものすごいことだと改めて思う今日この頃です。

<今月の聖句>

喜んで与える人を神は愛してくださるからです

(コリントⅡ 9-7)

神さまはすべての人間に自由意志をお与えになりました。

人間が自分のもっているものをどのように使うかは、自由に決められます。

ある人は、自分のもっているもの（本当は神さまから預かっているもの）に飽き足らず、他人のものも奪おうとします。

不思議なもので、奪おうとすれば、いつまでたっても満ち足りることはありません。

ところが進んで与えれば、心に平安が訪れます。

もちろん、与える人のなかには、「しょうがないな。今度だけだよ」と、たいへん迷惑そうに応じる人がいます。

「何か後で、見返りがあるのかな」と露骨に口にする人もいます。

そういう人は喜んで与える人ではないので、どんな大金を支払っても、またどんなに少額でも、見返りがなければ損をしたと思うだけでしょ。

ところで、自分のもっているものとは、お金や富だけでなく、自分の能力、時間も含みます。

世のなかには自ら進んで、見ず知らずのご老人や障害をもたれている方を訪問して世話をしたり、道路脇や公園のゴミを拾い集めたりしている人がいます。

こういう人は金銭的に無報酬でも働くのです。

しかも、喜んで……。

報酬は、物質的なものではなく目には見えません。

報酬は、神さまに愛され祝福を受けることです。

～教養として知っておきたい聖書の名句（中井俊巳、グラフ社）より～